

YON de ズコウタイムス

展覧会
作品・活動
紹介号



令和6年度 展覧会

光輝く 思いをこめた たからもの

展覧会の作品・活動を
紹介します。

日時：令和7年2月20日（木）～22日（土）

場所：小金井第四小学校 体育館・正門周辺

渡り廊下・中庭・東門周辺

1年

かいが へいめん
絵画・平面

キャンディだいすき

「こんなキャンディがあったら」と自分のキャンディを想像しました。「つい食べたくなっちゃう」「こんなキャンディビックリしちゃう」と一人一人楽しんで描きました。「どんな形のピンに入れるとステキかな」とキャンディに合わせてピンの形にも工夫がいっぱいです。

いろイロ色

ローラーで色遊びをしてつくった模様紙を思い思いに切って貼り付けたり、型抜きにスポンジで色をつけるステンシルの技法で色をつけたりして表しました。筆で描くのと違う思いがけない効果が出て、できた絵の具の模様をもとにクレパスで絵を描いて、想像がぐんと広がりました。

こうさく りったい
工作・立体

おしゃれぼうし

「どんなぼうしにしようかな」「こんなの欲しかった」「どこにかぶって行こうかな」カラフルな厚紙を思い思いの形に丸めてぼうしの形をつくりました。紙の特徴を生かし、模様を貼ったり、飾りをつけたりして、世界に一つのおしゃれなぼうしができました。

キラキラサンゴ

ペットボトルに穴をあけ、割りばしを差し込んで芯にしました。紙粘土に色を混ぜて、芯にかぶせ、ニョキニョキ伸びるサンゴをつくりました。飾り付けもビーズやスパンコールなどで工夫して仕上げています。



きょうどうせいさく
共同制作

花いっぱい

1年生は広がっていた長い造形ビニルシートに興味津々。このシートを花壇に見立て、そこに自分で混ぜてつくった緑色で植物を描いていきました。花や実などもいっぱいついた豊かな花畑になりました。会場では天井に飾られ、空に浮かぶ不思議な花畑になっています。

あい そのほいくえん めくいはいくえん
愛の園保育園 貫井保育園

めくいは ほういくえん こうりゅうじゅぎょう
貫井あおいそら保育園との交流授業

いしころコロコロ

1年生は、地域の保育園の子どもたちと一緒に、いろいろな石を使った造形遊びを楽しみました。次年度に小学校へ進学する年長組の子どもたちと、この1年間でグッと成長した1年生が出会い、造形活動を通じて交流する、これまで無かった機会です。

いろいろな石の形や色、感触、重さなどの特徴を味わいながら、並べたり、積んだり、組み合わせたりして、2月14日（金）に四小の体育館周辺・中庭を变身させる活動となりました。



ぜんこうさくひん
全校作品

にじいろにそまって

校庭で色を楽しむ図工の授業をしました。いろいろな色の絵の具が入ったカップから色を選んで、丸められた包帯を染めました。染まった包帯を広げると、色がにじみあっていました。並べて干したみんなの作品が風で揺れて「虹色のカーテンだ!」と喜ぶ1年生の姿が見られました。



ステンドグラス

黒画用紙を折りたたんで切り込みを入れて、開いてみると、いろいろな模様が生まれていました。穴の部分に配色も考えながらカラーセロハンを貼り、ステンドグラスのように仕上げました。この作品は体育館の上のギャラリーの窓に飾っています。まるで学年でひとつの大きな光の窓のように見えます。

とうげいか ふじもとよしとか こうりゆうじゆぎょう
陶芸家 藤本良毅さんとの交流授業

どぐうさん

校庭から出土する縄文土器に普段からなじみのある2年生は、9月27日（金）に陶芸家の藤本良毅さんと交流授業を行いました。粘土で自分の「どぐうさん」をつくるときのポイントや、粘土がやきものに変わっていく過程について藤本良毅さんが説明してくれたので、子どもたちは興味津々に聞いていました。粘土の塊を手渡された瞬間は「重いっ！」と驚いていた子どもたちですが、「自分のどぐうさん」を考えて作り始めると夢中で制作していました。一体一体思いがこもったどぐうさんが生まれました。

1ヶ月間乾燥させてから焼成しましたが、粘土が柔らかかったとき、乾燥させたとき、焼き上がったときとどんどん質感や色が変わっていくことに驚いていました。



ぜんこうさくひん
全校作品

ホワイトプランツ

まず白い画用紙を輪や円にして花や植物のものの形をつくりました。そこから切り込みを入れ、巻いて丸みをもたせたり、折ったり、重ねたりしていくと、個性豊かな白い植物が生まれました。ハサミやのりを駆使し、紙工作の技術を働かせて飾り付けなども工夫して仕上げていました。この作品はブラックライトの光を浴びると神秘的に青白く光り輝きます。

かいが へいめん
絵画・平面

がっこうの木

初夏の校庭で自分が気に入った木を、筆ペンを使って墨汁の黒い線で描きました。枝や幹が空に向かって伸びる木、根っこが力強く地面に這う木、葉が青々と茂る木など、個性豊かな木が描き出されました。遊具や生き物など木の周りの風景ものびのび描かれています。

墨汁の黒い線を生かしながら、色はクレパスをぐいぐい塗り、いろいろな色を混ぜたり重ねたりして塗り方を工夫して表していました。

とりとわたし

今の自分と鳥をテーマに描いています。鏡を見て自分の顔に向き合い、ペンで描きました。鳥は図鑑のいろいろな鳥からヒントを得て、どんな鳥にしようか考えました。画用紙の上で水彩絵の具の三原色を混色しています。一人一人の考えが色に表れている作品です。

こうさく りったい
工作・立体

ちかくにいるよ

新聞紙を固めに丸めて芯にし、半紙をくしゃくしゃにして柔らかくなったところで芯に貼り付けていきました。いつも近くに置いておきたくなるものを考えてつくっています。色もつけて仕上げています。

すきなものなかに

自分が紹介したい「すきなもの」をあれこれ考えて、紙粘土で形づくりました。生きものにする子、食べものにする子、乗りものや身の回

りの道具にする子など、一人一人の「すきなもの」が伝わってきます。色はクレパスを使ってつけています。



展覧会プログラムで掲載した児童の記載に誤りがありました。訂正してお詫びいたします。

3年

かいが へいめん
絵画・平面

草むらのなかまたち

2年生で紙版画の制作を経験している3年生は、今年は版を回転させて刷ったり、何色も重ねて刷ったりとさらに新たな挑戦をしました。版の材料も画用紙だけでなく、いろいろな凸凹のある材料を組み合わせで表していました。何色も重ねて刷ることで、草むらの中にいるかのような複雑な絵が刷り上がりました。

土えのぐんぐん

自然から色をもらおうと、絵の具を土からつくる活動に取り組みました。集めてきた土などをふるいにかけて、混ぜ合わせたりして絵の具のもとをつくり、のりを加えて絵の具にして描きました。土だけでもいろいろな色があることに気付いたり、乾くと凸凹や艶があることに驚いたり、土絵の具のおもしろさをたくさん味わっていました。

こうさく りつたい
工作・立体

森のコルクンの小さな家

3年生の手によってコルク栓から生まれた森の妖精コルクンたちは、とてもユーモラスでかわいらしい作品になりました。このコルクンの家をつくろうと、初めてノコギリを使って木を切って組み立てました。角材・板・丸太・枝などいろいろな木材を組み合わせ、工夫して家を建てました。アスレチックのような家、ふわふわのベッドもある居心地のよい家、動く仕掛けのある家もあります。

そめ・おり

身近な自然から色をもらおうと、藍の生葉染め、玉ねぎの皮や枇杷の葉の煮染めを経験しました。染めている間にも色の変化が見られ、ため息がもれました。自分が縛ったり留めたりしたところが思いがけない模様になることも楽しめたようです。

布と一緒に染めた毛糸などを使い、織りものにも挑戦しました。四角・丸・三角などさまざまな形のダンボールに切り込みを入れ、織り機をつくりました。縦の糸と横の糸を織り合わせていくと彩り豊かなタペストリーのような作品が生まれました。



きょうどうせいさく
共同制作

ふわんふわん

ビニルやプチプチ緩衝材など透明・不透明の材料を組み合わせ、チームで力を合わせ、大きな生きものたちを形づくりました。くしゃくしゃの紙やプチプチした緩衝材などが詰められているので、ふわふわしていてぎゅっとしたくなるような作品です。

東京学芸大学

てつやえつろう こうりゆうじゆぎょう
鉄矢悦朗さんとの交流授業

光のまゆ

3年生は東京学芸大学教授 鉄矢悦朗さんとの交流授業に取り組みました。鉄矢悦朗さんは立体・空間デザイン・ものづくり教育の研究と実践を行っている方です。9月19日(木)5・6校時に、学年でダイナミックに活動を展開しました。体育館いっぱいにスズランテープという光を通す線材を使って、自分たちが入れられるような「光のまゆ」が立ち上げていきました。テント状のもの、宙に浮いているもの、ドーム状のもの、フラフープを組んだものなど多様な表現が見られました。最後に光を灯してみると「光のまゆ」が暗闇に浮かび上がって見え、幻想的な空間が出現しました。展示会では舞台の奥に展示しています。



ぜんこうさくひん
全校作品

ポーズ・ポーズ

国語で「ちいちゃんのかげおくり」を勉強した3年生は、消えないきれいな影をつくろうとチームで挑戦しました。紙の上に寝て楽しいポーズを大きな紙に写し取り、色とりどりの蛍光塗料や蛍光チョークで模様を描いて表しました。チームでポーズや模様のつけ方を相談して制作しています。ブラックライトゾーンで光る様々なポーズの人々は楽しく遊ぶ四小の子どもたちの姿のようです。

ダンボール・タウン

箱・板・波ダンボールなど、さまざまなダンボールを切り抜いたり、つなげたり、重ねたりして、みんなで大きなダンボールのまちをつくりました。ビルやタワー、城、遊園地、電車の線路や駅など、ダンボールタウンにはいろいろな場所があります。そのまちに木でつくった乗りもの「ウッディ・ビークル」も飾られています。

東京学芸大学

にしむらとくゆき 西村徳行さんとの交流授業
こうりゆうしゅぎょう

か・お・り

東京学芸大学の西村徳行さんと学生の皆さんと9月26日（木）3・4校時と10月3日（木）3・4校時の2回に渡り、交流授業を行いました。感覚を働かせ、「かおり」から広げる授業です。

初回は心地よい「かおり」、刺激のある「かおり」、臭い「かおり」、どこかでかいたことがある「かおり」など、身の回りの16種類の「かおり」を感じる「かおりバイキング」をしました。そこから気に入ったり気になったりした「かおり」を絵の具で表しました。同じ香りでもいろいろな捉え方があることにも気づけ、おもしろい体験になりました。

2回目は、ペアでひとつのかおりを込めた「かおりドーム」をつくりました。かおりのもとをドームに吊るしたり貼ったり、絵の具やボンドに混ぜて塗ったりと、かおりを閉じ込める方法もさまざま、描かれた模様や絵もいろいろな表し方がありました。子どもたちが、吊るされた「かおりドーム」にスポッと入り込んで、制作したり、体感する鑑賞をしたりしている姿もほほえましい授業でした。



ぜんこうさくひん
全校作品

スティックスティック

チラシを巻いてつくった固くて細いスティックを組んでいくと、立体が立ち上がっていきました。大きな作品もグループで協力し合って形にし、中に入ったり吊るして眺めたりしてその空間を味わっていました。展示会では幾何学的な形でまちを表し、ブラックライトゾーンで光る作品として展示しています。

4年

かいが へいめん
絵画・平面

龍-ドラゴン-

令和6年の干支 龍（ドラゴン）をテーマに、初めて彫刻刀を使って板を彫る木版画に挑戦しました。安全な彫刻刀の使い方に気をつけながら慎重に彫っていきました。白と黒のバランスや、彫り跡の模様、龍の表情などを考えながら版を彫る姿は初めてとは思えない集中力でした。彫り上げた版にインクをつけて刷ると見事な龍の姿が表れて、歓声がもれていました。

化石発見！

地中から発見される化石は昔の世界の様子を今に伝えてくれるものです。「こんな化石が発見されたら…」と想像を広げて、4年生は化石づくりに挑戦しました。3年生のときに土を絵の具にした4年生は、その経験を生かして、土や砂を使い、作品を化石のように固めて仕上げました。今年は実物大なのではと思うくらいの大作も生まれ、4年生のパワーを感じます。

こうさく りったい
工作・立体

光のまど

トレーシングペーパーに、カラーセロハンやお花紙、パレントペーパーなど、光を通す色とりどりの材料を組み合わせて絵に表しました。その絵にダンボールで窓枠を付け、「光のまど」にしました。ダンボールの窓枠にダンボールの特徴を活かしていろいろな飾り方や動かしかけなどを工夫しました。光にかざすと楽しい作品になりました。

ウッディ・ビークル

昨年の木工作の経験を生かして、今年は動く木の乗りものの制作に挑戦しました。いろいろな形の材料を組み合わせてつくっていきました。車軸やタイヤなどの部品を使った仕組みをつくったり、ドアや窓を開け閉めできるようにしたりと工夫いっぱいです。



5年

かいが へいめん
絵画・平面

重なり合う形・色

4年生のときに彫刻刀を使う木版画を経験した5年生は、彫刻刀で版を彫るだけでなく、初めて経験する電動糸ノコギリで、版をパズルのように切り分けて形や色を組み替えられるようにしています。

消してかく

「花炭（ハナズミ）」づくりをした5年生は、そのときに残った炭を絵の材料としても使ってみました。炭を紙の上に広げてこすりこんだり、つぶして振りかけたりして、画面が一気に灰色や黒に変わっていきました。その黒い画面に、消しゴムで消してかくという、いつもとはちょっと違う描き方で表しています。

こうさく りったい
工作・立体

DOKI DOKI

四小の校庭では、子どもたちが縄文土器のかげらをたくさんみつめています。自分たちもドキドキするような土器をつくらうと、ひも状に伸ばした粘土を積み上げるようにして形づくっていきました。形や飾りが個性的な土器に仕上がりました。

キンゾクロン

アルミなどの金属を生きものに生まれ変わらせようと、切ったり、打ったり、つなげたり、組み合わせたりとさまざまな方法を駆使してつくりました。抵抗感が強くて扱いにくい金属ですが、ひるまずに、硬さ・冷たさ・手触り・音なども味わいながらどんどん挑む姿が見られました。見たこともない不思議な金属のクローン「キンゾクロン」が出来上がりました。

かていかさくひん
家庭科作品

初めてのミシン-クッション-

初めてのミシンに初めは苦労しましたが、世界に一つの自分だけのクッションを制作しました。



きょうどうせいさく
共同制作

自然が奏でる音色

青写真 太陽光でいろいろなものの影を感光紙に焼き付けて制作する青写真に挑戦しました。どんな形の影をどんな並べ方で焼き付けるか試しながら、グループの大きな感光紙と自分がつくった感光紙2枚を焼き付け、水洗して現像しました。めくるめく色の変化が見られるおもしろさに、歓声も聞かれました。グループ作品を展示します。

バンブー楽団 竹を材料に楽器をつくってみようと挑戦しました。楽器の鳴らし方には吹く・たたく・こする・振るなど、いろいろな方法があることを見つけ、竹の加工の仕方も身につけて、音を確かめながら楽器をつくりました。いろいろな竹の楽器の音が工作室中に響いていました。

こうりゅうじゆぎょう
CASIO との交流授業

自然からのおくりもの ハナズミアート

5年生は11月に「花炭（ハナズミ）」をつくる体験をしました。三楽の森に形が面白い葉や実などの自然材を探しに行き、それを炭にしました。火に入れた自然の材料が形を残しながら炭になるという経験したことのない現象を見ることができました。火付けの仕方なども併せて体験しました。この活動の最後は、「花炭（ハナズミ）」をステキに飾れる作品にしようと取り組みました。「花炭（ハナズミ）」と一緒に合わせた材料には、板材だけでなく、丸太などの自然木や流木も利用しました。子どもたちは絶妙のバランスで「花炭（ハナズミ）」が引き立つオブジェに仕上げていました。



ぜんこうさくひん
全校作品

空飛ぶ鳥

紙と針金を組み合わせて、チームでアイデアと力を合わせて羽ばたく鳥をつくりました。立体的な作品で、針金が入っている羽はポーズを考えて曲げ伸ばしができます。白い紙はブラックライトゾーンで光るので、空を飛ぶ鳥が暗闇に光る姿は神秘的でした。

6年

かいが へいめん
絵画・平面

かさなりE (え)

使い慣れた水彩絵の具を使ってどんな表現ができるかと材料や道具を自分で選び、垂らす、吹く、にじませる、ぼかす、散らす、押しつけて写す、点でかく、覆って型取りするなど、表し方を試しながらいろいろな模様を描きました。ここで発見したことをもとに、模様などを描いた絵と透明のシートに描かれたものをレイヤーのように重ねる作品に挑戦しました。

墨から

墨や自然材が生かされた日本画のことを知った6年生は、いろいろな材料を組み合わせ新しい筆をつくったり、墨の濃淡・にじみ・かすれ・筆の運び・筆圧・太さなど墨からできる表現を試行錯誤したりして自分の「水墨画」を表現していました。



こうさく りったい
工作・立体

和の形

和紙や竹ひごなど自然素材を使って「和の形」の制作に取り組みました。土台のダンボールの穴に竹ひごを差し、組み立てると、立体が立ち上がってきます。竹ひごで組まれた枠に和紙を貼り、貼り方や色・模様にも工夫を凝らして仕上げました。光を灯した「和の形」は温かな光に包まれています。

ダンボールから生まれる

ダンボールの造形作家 玉田多紀さんの技を手がかりに6年生はダンボールから生きものをつくりだす活動に挑戦しました。つぶしたり曲げたりして柔らかくしたダンボールで、つくりたい生きものに合わせ、立体的に立ち上げました。水でふやかしてはがしたダンボールはテープや粘土のようにして貼ったり盛り上げたりして肉付けしていききました。どんどん表情豊かな生き物が生まれていました。

かていかさくひん
家庭科作品

思いを形にーナップザックー

昨年度身につけたミシンの技術を駆使して、つくり方が複雑なナップザックの制作に挑戦しました。使い道も考え、思いをこめてつくりました。

きょうどうせいさく
共同制作

スチレンキャッスル

6年生は熱でスチレンを切るスチレンカッターなどを使って、材料をいろいろな形にして自分たちの城をつくる活動に挑戦しました。グループでアイデアを出し合い、協力し合って組み立てていきました。洋風の城、和風の城、竜宮城、高くそびえる城、おもしろいデザインの城など、さまざまなスチレンキャッスルが生まれました。

こうりゅうじゆぎょう
アートフル・アクションとの交流授業

竹取物語

6年生は小学校最後の図工の大きな活動として、竹を使った空間づくりに挑戦しました。はじめに、三楽の森の竹林から竹を切り出し、学校まで運ぶところからスタートしました。竹は貫井神社や東京学芸大学からもいただきました。



運んだ竹の枝はらいをする方法や目的に合わせた太さに割る方法を NPO 法人アートフル・アクションや保護者の皆さん、地域の皆さんから教わって、グループのアイデアに合うように材料を用意していきました。金づちで節を取ったり、小刀を上手に使うと角を削ったりと、職人のような姿も見られました。チームで力を合わせて竹を割ったときの音や感触は初めて味わう爽快な体験でした。自分たちが一本の竹から材料にした竹を縄や針金で組んでいくと、大きな竹の空間が立ち上がっていきました。いろいろな形の空間ができました。

ぜんこうさくひん
全校作品

モノクローム

6年生は学級・学年でひとつになって取り組むことがたくさんあります。そこで自分のクラスからイメージするキャラクターをモノクロで表してみました。一人一人が描いたキャラクターたちが学級で一つの大きな作品に変身しています。モノクロの作品はブラックライトゾーンで光っています。

5・6年 子どもガイド てんらんかい 展覧会づくり

5年「展覧会をつくろう」プロジェクト

5年の展示を考えて飾ろう

- A DOKI DOKI
 - B キンゾクロン
 - C 青写真・バンブー楽団
 - D ハナズミアート
- 自分たちの作品をどう飾るか
考えて展示しました。

展覧会場を飾ろう

E「つなぐれストロー」
集めたストローを活用し
会場を飾る展示を工夫し
ました。



6年「展覧会をつくろう」プロジェクト

6年の展示を考えて飾ろう

- A 竹取物語
 - B モノクローム
 - C 和の形
スチレンキャッスル
ダンボールから生まれる
- 自分たちの作品をどう飾るか
考えて展示しました。

作品を紹介しよう D

6年の作品の題名や説明の
表示を、見やすく、感じが伝
わるように、表し方や材料を
工夫して表しました。

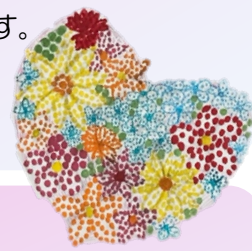
展覧会場をつくろう E1

- 立て看板
 - テーマ
 - 「てんらんかい」
展覧会実行委員が作成
して、プロジェクト
チームが飾り方を考
えました。
 - 案内
 - 学年表示
 - 会場図
- 来館者がわかりやすいようにと、
会場での動きを考えながら表示
を制作し、設置しました。



来館者ワークショップ E2

鑑賞を見るだけでなく、来館者が
参加できるところもつくろうと、
展覧会実行委員のアイディアで、
資源として集めたペットボトルの
キャップを活用して絵画をつくる
ブースを企画しました。会期後は
リサイクルできる作品です。
展覧会実行委員が図案を6年生に
募集し、デザインを決定しました。
会期中に大きな絵ができるのを楽
しみにしています。



代表委員会

展覧会テーマを募集して決定し、全校に働き
かけました。また、展覧会キャラクターたちを
デザインし、いろいろな場所に登場させまし
た。展覧会までのカウントダウンも掲示し展覧
会を盛り上げました。

5・6年 子どもガイド

それぞれのクラスの鑑賞時間や保護者・一般の鑑賞時
間に展覧会場で展覧会の作品や活動について、一人
一人が担当してガイドします。展示の内容を各学年に取
材して、伝える内容も伝え方も一生懸命考えて準備し
ています。どうぞお聞きください。

6年 展覧会 BGM

6年生は音楽の時間に、展覧会の各学年の作品を
イメージして、BGMを制作しました。会場内に流
れている曲にもぜひ耳を傾けてください。

5年 連合音楽会 de バンジー楽団

5年生が11月28日に連合音楽会で合唱と合奏
の間に、図工で制作したオリジナル竹楽器で演奏し
ました。館内にその曲の試聴コーナーがあります。